

**【港南区】令和2年第3回区づくり推進横浜市会議員会議  
議事録**

開催日時	令和2年9月4日（金） 午後3時30分～午後5時00分
場 所	港南区役所6階 603会議室
出席者	<p>【座長】 安西英俊議員</p> <p>【議員：4名】 瀬之間康浩議員、田野井一雄議員、みわ智恵美議員、梶尾明議員</p> <p>【港南区：31名】 今富雄一郎区長、齋藤紀子副区長 馬淵勝宏福祉保健センター長、 水野圭一郎福祉保健センター担当部長、 井深清港南土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和元年度個性ある区づくり推進費決算</li> <li>2 令和2年度個性ある区づくり推進費の執行状況</li> <li>3 令和2年度個性ある区づくり推進費（自主企画事業費）現年度見直しについて</li> <li>4 令和3年度個性ある区づくり推進費予算編成の考え方 (繁野総務課長説明)</li> </ol>
発 言 の 要 旨	<p>梶尾議員：日野川の改修事業について、昨年の時点でポンプが付いていたと思うが、今はどうなっているのか。</p> <p>麻生港南土木事務所副所長：以前とは位置が変わっているが、現在も暫定のポンプが設置されています。</p> <p>梶尾議員：そのポンプはどのように稼働するのか。以前確認した際には、近くにいる作業員が稼働させに行くとのことだったが、現在も変わりないか。</p> <p>麻生港南土木事務所副所長：運用については、引き続き工事を行っているため、そちらで対応しています。</p> <p>梶尾議員：人力での稼働は台風の時など危険が伴うため、安全面も考慮して対応願いたい。さて、港南区では広報活動として、地域密着型アプリやフェイスブックの活用など、多角的な情報発信を行っているが、区民への周知が行き届いていないと感じる。情報をまとめて周知するなど、区民の方が情報を得るための、利便性の向上を図る取組が必要だと思うが、どうか。</p>

高岡区政推進課長：港南区では、地域密着型アプリ「ピアッツァ」、広報よこはま、健康経営フェイスブックページ、ツイッターなど様々なツールを活用し、情報発信をしています。少し分かりにくい部分があるかもしれませんので、区のホームページの目立つ部分に、情報発信の手段をまとめたページを作るなど、よりご活用いただけるよう、工夫していきたいと考えています。

梶尾議員：ぜひ、区民の方や転入される方が利用しやすく、区への愛着を持っていただけるよう、充実したページとなることを期待している。今年度、様々な地域の行事やイベントが中止となり、障害者施設等で作った製品を売る機会が減って困っていると聞く。現状と今後の取組について伺いたい。

大島高齢・障害支援課長：現状ですが、障害者施設等で作っている製品の売上が落ち込んでいるという話は確かに伺っています。一方で、新型コロナの影響で施設利用者の方が通所を控え、通常どおりの生産ができないということも聞いています。売上が落ちていることへの対応ですが、港南区内の障害がある方のための活動ホームや地域作業所の集まりである「こうなん来夢（らいむ）」による、区役所での販売について、一時は休止していたものの6月から再開しており、職員向けに販売の予定を周知するなど、できることから販売促進に取り組んでいます。また、こうなん来夢と定期的に行っている会合を通じて、各作業所等の現状やニーズを把握し、相談しながら進めてまいりたいと考えています。

梶尾議員：他の自治体では、障害者施設等の製品を集め、パッケージ化し付加価値をつけて通信販売したり、生活必需品など、ニーズの高いものをコーディネートするなどの事例がある。今後の変化に対応し、より有効な支援につながるよう考えてもらいたい。また、経営状況が苦しい事業所等もあるため、負担が過多にならないよう配慮しながら、取組を進めてもらいたい。

みわ議員：日野川の改修は、1時間で50ミリの雨量に対応できる河川改修ということでよいか。

麻生港南土木事務所副所長：そのように進めています。

みわ議員：昨年のゲリラ豪雨では、瞬間的ではあるが1時間80ミリを超える雨が降り、被害も出た。時間50ミリ対応の改修で、ゲリラ豪雨にはどう対応していくのか。

麻生港南土木事務所副所長：現在、横浜市における河川全体の目標が 50 ミリ対応であり、順次整備しているところです。全ての整備が完了してから、市で検討する整備計画に基づき、次のステップに向け対応していきたいと考えております。

みわ議員：想定を超える雨が降り、様々な対応をしなければならない中、まちづくりという点でグリーンインフラや、雨を滞留できるような場所などを考えていかなければならないと思う。芹谷川の改修について、今までよりも深くなるということで、こちらも 50 ミリ対応の改修ということか。

麻生港南土木事務所副所長：芹谷川については、時間何ミリへの対応という改修ではありません。河床形状がクランク状になっているため水がせり上がり溢れるという現象が発生しているため、河床を下げて水位が上がらないようにするという暫定の対策です。

みわ議員：河床形状の改修は、他の河川で実績があるのか。

麻生港南土木事務所副所長：他の河川での実績は把握していないが、断面が増えることで流下する能力が高まります。また、パラペットでのかさ上げにより跳<sup>ちようすい</sup>水がなくなることで、把握している特定の場所からの溢水<sup>いっすい</sup>を防止できるとし、暫定的な対策としています。

みわ議員：新型コロナウイルスへの港南区の取組として、職員間で保健所への応援体制を取っているとのことだが、現状の実績を伺いたい。

森山福祉保健課長：福祉保健課健康づくり係が中心となって新型コロナへの対応を行っており、係長を含む保健師 5 名と事務職 2 名で対応しています。毎日、こども家庭支援課、高齢・障害支援課から保健師 1 名、保健師以外でも対応できる業務を切り分け、総務部から 1 名の応援体制を取っています。また、生活衛生課では、民間救急車出動時の防護服着脱に対応しています。

みわ議員：応援体制を取っているとのことだが、人員全体が考えられるべきではないかと思っている。特別定額給付金について、1,784 件の相談があったとのことだが、区における申請率・給付率はどのくらいか。

繁野総務課長：港南区の申請率は 98.2%、給付率は 97.8%となっています。

みわ議員：本来受け取れる方なのに、手続きにつながっていないという声

も聞く。申請せずに受け取らない選択をしている方もいると思うが、一番必要な方に届いていないのではという心配もある。申請期限まで残り数日ではあるが、区として未申請の方への取組を考えているか。

繁野総務課長：区独自での対応は行っていないが、区庁舎内へのポスターの掲示や、各窓口でのお問い合わせ対応の中で周知するよう努めています。

みわ議員：未申請の方についての情報は市から共有されていないのか。

繁野総務課長：総務課に具体的な名簿は来ていないが、おおよその人数については把握しています。

みわ議員：必要な方に届かないようなことがあれば大変残念なので、できる限りの取組をしてもらいたい。令和元年度決算の中で、緊急時情報伝達システムを活用した情報受伝達を台風15号の際に行い、また、昨年度3回訓練を実施したとあるが、受信する側の機器はどのようなものを使っているのか。

繁野総務課長：全体で149自治会町内会の170名の方に登録いただいておりますが、特別な機器は必要なく、固定電話や携帯電話をお持ちであれば、情報を受信できるようになっています。

みわ議員：緊急時の連絡体制が構築できたということだが、把握している課題などがあれば教えてほしい。

繁野総務課長：訓練は毎年3回行っているが、返信率が100%にはなっていないため、できるだけ大勢の方に受信を確認いただき、返信もいただけるようにすることが課題と考えています。

みわ議員：良い取組だと思うので、返信できず困っている方がいるならば、訓練の中で対応してほしい。

瀬之間議員：新型コロナウイルス感染症における、避難所への対応等について、区内避難施設へ配備するためのマスク、手指消毒液、非接触型検温器などを購入したとのことだが、既に避難所に配備されているのか。

繁野総務課長：13か所の風水害時の避難場所については、実際に発令された際に職員が持参することとしているため、現地には置いていませんが、マスク、手指消毒液、非接触型検温器に加え、プラスチック段ボール製の間仕切りを用意しています。

瀬之間議員：衛生用品の備蓄はしっかり行ってもらいたいと思う。長寿動

物の飼い主表彰について、何歳以上を表彰しているのか。

有竹生活衛生課長：今年の8月31日時点で16歳となっている、犬などの飼い主212名について表彰することとなりました。表彰式は賞状の郵送方式に変更して行います。

安西議員：個性ある区づくり推進費見直し内容のコロナ対策等への活用について、関係機関とのリモート会議への活用のための必要な機材の購入というのはどこを対象にしたものか。

繁野総務課長：リモート会議の機材ですが、地域の方々となかなか会合等ができないため、地元の方と区で行う会議等で活用できればと準備しているところです。

安西議員：地域も含めて備えることが大切だと思う。さて、ゲリラ豪雨を含む風水害や地震など、様々な災害がある中で、災害によって避難所が異なるため、避難の在り方について、分散型か留まった方がいいのか今一度整理したうえで、地域防災拠点の責任者の方を通じて地域に浸透させる必要があると感じる。現在、どのようなことに取り組んでいるか。

繁野総務課長：避難場所は、震災時の避難所と風水害時の避難場所で大きく違いがあります。区民の方の中にはどちらの場所なのかご存知でない方も多くいらっしゃいます。そこで広報よこはま9月号に震災時の避難所と風水害時の避難場所について、わかりやすく違いを示したものを特集で組ませていただいています。地震に関しては、震度5強以上ですと自動的に地域防災拠点が開設されます。風水害に関しては、段階的に避難場所を開設し、最大で13か所の開設を予定しています。土砂災害警戒情報が発令された際は、地区センター3か所をまず開設し、それ以降は洪水などの危険が予測される場合に、対象河川ごとの水位状況等を判断し、順次開設していきます。大きな台風の場合等は最大で13か所を開設し、それぞれの避難場所では区の職員が2～3名で対応する予定で、これらはホームページや広報で周知しているところです。コロナ禍の時期ですので、ご自宅、ご親戚、お友達のところでも安全な場所が確保できる時は、無理に避難場所に向かわず、在宅避難をしていただくよう広報やホームページで啓発しているところです。

安西議員：今の説明はとても大事なことで、広報よこはまやホームページ

で周知しているとのことだが、情報を定期的に瞬時に届けるのが難しいということが、横浜市が大規模であるがゆえの課題である。広報は定期的に掲載されるが、内容がきちんと読まれ、覚えていただけるよう、頻度を上げて目に触れるようにしたり、地域の方の口コミとして広まるように、常に工夫・改善しながら、引き続き検討していただきたい。新型コロナウイルスへの港南区の取組について、個人向けの住居確保給付金や緊急小口資金、総合支援資金など様々な制度があるが、せっかく制度があっても対象の方になかなか届きにくいということがあるので、コロナの影響の長期化により生活的に苦しいとお悩みの方へ、制度の情報がしっかりと届くような工夫をしていただきたいと思いますどうか。

高岡区政推進課長：市民向け、事業者向けへの様々な支援メニューについて、区役所入口の目立つところに一覧を大きく掲示し、関連するチラシを配架しています。引き続き、来庁される方が分かりやすく情報を入手できるよう、掲示をしてまいります。

安西議員：日野川の改修については、モデル的に土のうをストックしてもらっているが、その後の状況はどうか。

麻生土木事務所副所長：日野川は、被害を受け土のうステーションを暫定的に設けており、現在、土のう置場にビニールカバーを付けた状態で保管しています。工事期間中の土のうの補充については、工事業者に対応いただいています。将来的にも土のうステーションは必要であると思いますので、資材などは土木事務所が提供していく可能性があります。地域の方々と管理方法について相談していきたいと考えております。

田野井議員：コロナ禍において、大型ショッピングセンターやデパート等ではアルコール消毒はするが体温計はない。閉店間際など混雑する時間帯はレジに並ぶだけでも密になりやすく、高齢者の利用もあるため、感染経路が分からない中で危機感を持った対応が必要と考えている。次に、災害対応について、慰霊堂は県の施設だが、上大岡駅のすぐそばにあり、避難場所としての活用を検討するべきだと思う。異常気象で新幹線並みの風が吹いたり、想定以上のゲリラ豪雨が起きる中、水が来ない、例えば日限山の高台に避難場所やトイレの設置が必要である。中が外から見えて、人が入ると見えなくなるトイレなども今はあるので、そういったものの設

	<p>置も検討してほしい。最後になるが、コロナ禍において、医療関係者の皆さんも人の命を守ろうと一生懸命頑張ってくれていて、我々も応援している。感染拡大を防ぐ取組について、市全体としてもしっかりと対応するようお願いしたい。</p>
備 考	